

国籍は違うけど、 わたしも地球人



日系3世 来日17年
岸本由美さん(森山町)

来日当初の戸惑い

わたしは、日系3世ですが、両親も祖父母も純粋な日本人です。ブラジルに住んでいるときには、日本人としての習慣や自覚を家族から毎日のように教育されました。その結果、日本という国に強いあこがれを抱き、1990年に「出稼ぎ」として来日しました。当時のエピソードとして、幼いころに祖父母から「日本人は謙虚な心を持っている。人と擦れ違ふときには、軽く頭を下げてあいさつしなさい」と教えられていました。日本に来て、教えられた通りに会釈していました。そんなある日、ある日本人から「わたしのことをあなたは知っているのですか」と言われました。この時は、びっくりして、大変戸惑いました。また、ある会議のときに、わたしが発言すると「外人は黙って

いなさい」と言われたこともあり、今考えれば「差別」なのではないでしょうか。

祖父母の代に日本からブラジルに移住して、わたしの両親が生まれ、そしてわたしが生まれて、日本人同士で結婚して、そんなわたしは、祖国に里帰りしたつもりでした。来日当時は、いろいろなことで、ショックを受けたり、悩んだりしました。

今、来日している多くの日系人は、わたしと同じ気持ちでいると思います。

生まれた場所が外国であるというだけで、わたしたちは、やはり外国人なのだろうか。外国人と日系人は、少し意味合いが異なる。わたしは思います。

日本人として扱ってほしい

ブラジルに住んでいるときは、家族から、あまりブラジル人と交流を持たないようにと教育されてきました。学校は、半日だけブラジル人と同じ学校に通い、後は日本人学校で勉強していました。

だから、ブラジルでも当然「外人」と言われ続け、来日してから「外人」と言われて、どうしたらいいのでしょうか。

わたしが一番言いたいことは、日本人として扱ってほしいということです。

日系人の多くは、ブラジルで生まれ育って、初めて日本の土を踏む人が多くいます。だから、日本語が話せなかったり、習慣が違ったりするかもしれません。

しかし、少しかもしれませんが、日本人としての血は体の中に流れています。経験の違いから未成熟な日本人であると理解してほしいです。

甘えは通用しない

来日した日系人たちに言いたいことは、たとえ一時的な滞在であっても「自分たちはブラジル人だから」とか、都合のいいときだけ、「日本語が話せない、日本の習慣が分からない」などといった言い訳はしないでほしいということです。日本に住む以上、この国の言葉はもちろん、習慣などは守るのが当たり前です。

そして、一部の心無い外国籍の人たちが犯す犯罪や行動が、どれだけ、すべての外国籍の人たちの印象を悪くしているのか、本当に迷惑な話です。多くの人(日系人は、まじめに一生懸命生きています。

不慣れた場所で住むということは、相当な覚悟と自覚が必要であるということ。これを日系人たちに分かってほしいと思います。

みんな地球人

在住外国人との共生を推進するために、在住外国人に日本語を学んでもらい、習慣やマナーを守って地域に溶け込んでもらうことは大切なことです。

しかし、在住外国人ばかりに望んでも、日本人に共生をしようという意識が無ければ進まないのではないのでしょうか。

共生とは、外国人に日本の生活方針に従ってもらうことではありません。また、単に外国人に対して支援を行うことでもありません。

互いの声を聴き、共に理解し合い、協力していくことではないのでしょうか。人間は一人で生きていくことは難しいと思います。国籍に関係なく「お互いさま」の精神で生きることが「地球人」の証しです。



▲ブラジルの食文化を知ってもらおうと産業祭で出店したブラジル友の会の皆さん

「ありがとう」 = 「Obrigado (オブリガード)」 ポルトガル語